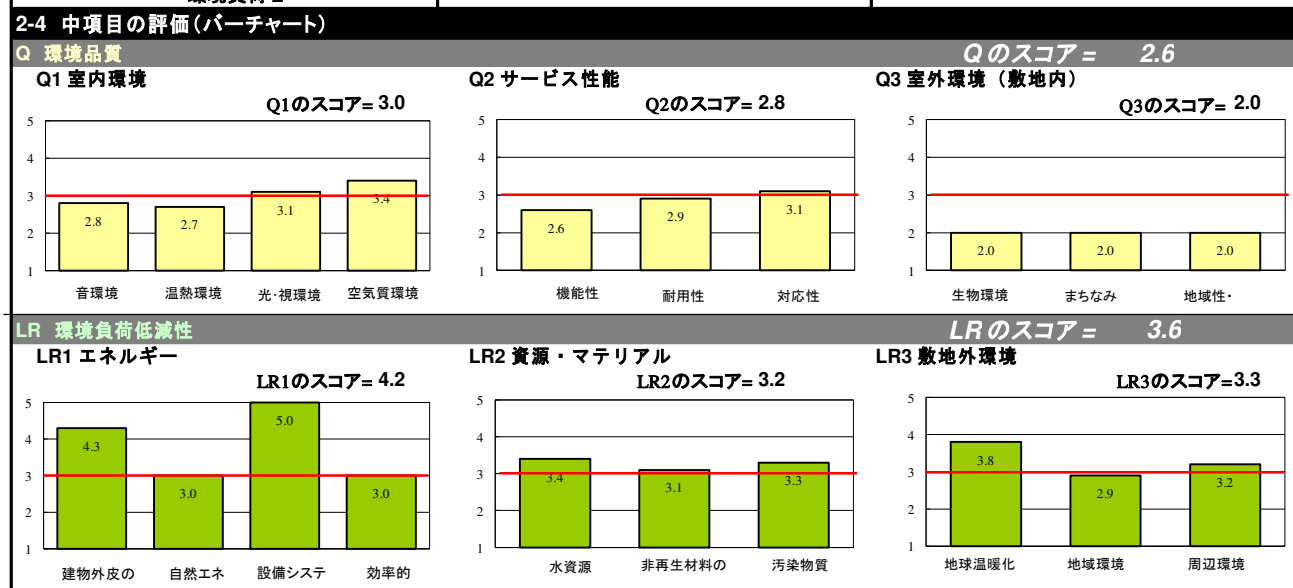
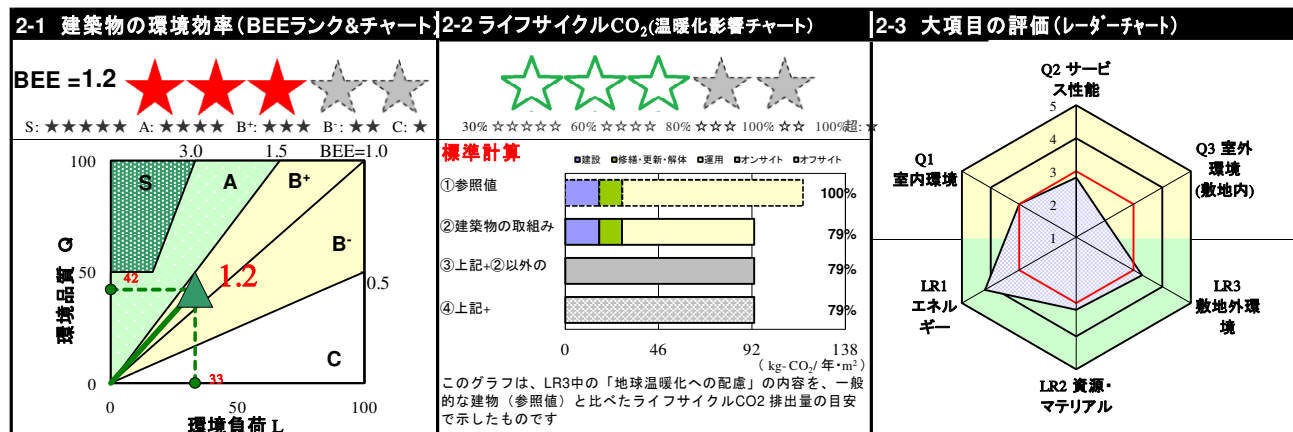


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ココファン 枚方公園	階数	地上5F
建設地	大阪府枚方市菊丘町	構造	RC造
用途地域	第2種中高層住居専用地域、準防火	平均居住人員	83 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院集合住宅、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年11月12日
敷地面積	2,170 m ²	作成者	株式会社 硯川設計
建築面積	881 m ²	確認日	2024年11月12日
延床面積	3,497 m ²	確認者	株式会社 硯川設計



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
・建物の高さを極力抑え、周辺のスカイラインに配慮しました。 ・上階を段階的にセットバックさせ、周辺への圧迫感の低減、日影の影響を考慮しました。		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・使用建材はF☆☆☆☆としました。 ・喫煙室は煙の流出を低減させるため、換気設備の能力を上げ、カーテンを入りに設けました。	設備のメンテナンス性の向上に配慮した。	高木、中木、低木をバランス良く配置し、また屋上緑化も設け、室外環境の向上及び室内の熱負荷の低減に努めた。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
外部に面する開口部は、全てLow-Eガラスを使用した複層サッシとし、断熱材の厚みを増し、外皮性能を高めた。	・断熱材は全てノンフロンを使用した。	・車両は専用通路を介し敷地内に誘導し、市道への出入りの際の安全性に配慮し、市道の交通渋滞を起こさぬようスムーズに出入り出来るよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)ココファン 枚方公園						
建設地		大阪府枚方市菊丘町						
用途／区分		集合住宅 病院						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						4	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	断熱性能						4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分					3	
④	エネルギー消費性能						5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分					2	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					4	
⑤	自然エネルギー直接利用						○	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	3.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	4.3	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		